

激変する中国と東アジア

拓殖大学海外事情研究所教授

富坂 聡とみ さか さとし

- *毎日、880人の役人を処分
- *習近平はなぜ反腐敗運動を始めたか
- *中国で加速するスマホ決済革命
- *今や電子商取引、シェアエコノミーも隆盛
- *アリババだけでAI投資額が日本の56倍
- *太陽光パネル道路に見るEVシフトの本気度
- *各階層のニーズに応える一帯一路
- *雄安新区という中国版ニューヨークの建設
- *米中貿易戦争の火種、「製造業2025」
- *北朝鮮問題をどう考えるか



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

本日は拓殖大学海外事情研究所の富坂先生に来ていただきました。富坂先生は1964年生まれで、北京大学に留学をされ、先ほどお話を伺いましたら当時の共同通信でアルバイトをしていたところ駐在員の辺見庸さんがパージされてしまい、当局の追及が本人にも及ぶという経緯もされています。日本に帰られてから週刊誌の記者をされ、その後フリーになって、小学館ノンフィクション大賞優秀賞を受賞されました。そういった状況を経て、現在、拓殖大学で教授をされておられます。中国の研究者は何人かお呼びしていますが、今日は中国の生の、特にハイテクを中心とした大きな変化といったものを現場のほうからお話を伺えると思います。それ

から、中国を含めた東アジア情勢についても、日本外交との関連でどういう状況になっていくのか、興味深いお話が聞けると思います。それは富坂先生、よろしく願います。（拍手）

毎日、880人の役人を処分

富坂 皆さんこんにちは。とにかく口を開けば暑いと言わざるを得ないわけですが、この暑い中、せっかく足を運んでいただいたわけですから、それには万全の勢いでお応えしたいと思ひまして、今日は皆さんがこの場で1冊本を読み終わって帰られるぐらいの情報量がつんとぶつけていきたいなと思っております。前後いたしましたけれども、名誉のある会に呼